

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、貸家業・貸間業が大きく悪化傾向を強め、悪化傾向に転じましたが、建売業・土地売買業、不動産代理業・仲介業は悪化傾向を弱めました。全体的には-58と14ポイント上昇し、悪化傾向を弱めました。売上額は-21と9ポイント、収益は-26と13ポイント上昇し、減少傾向を弱め、改善が続いています。価格面では、販売価格は-54と1ポイント、仕入価格は-21と18ポイント上昇し、下降傾向を弱める状態が続いています。在庫は-9と3ポイント下降し、不足感を強めました。資金繰りは-27と17ポイント上昇し、窮屈感が弱まる状態が続いています。残業時間は-4と9ポイント下降し、減少に転じました。人手は-11と2ポイント上昇するにとどまりました。

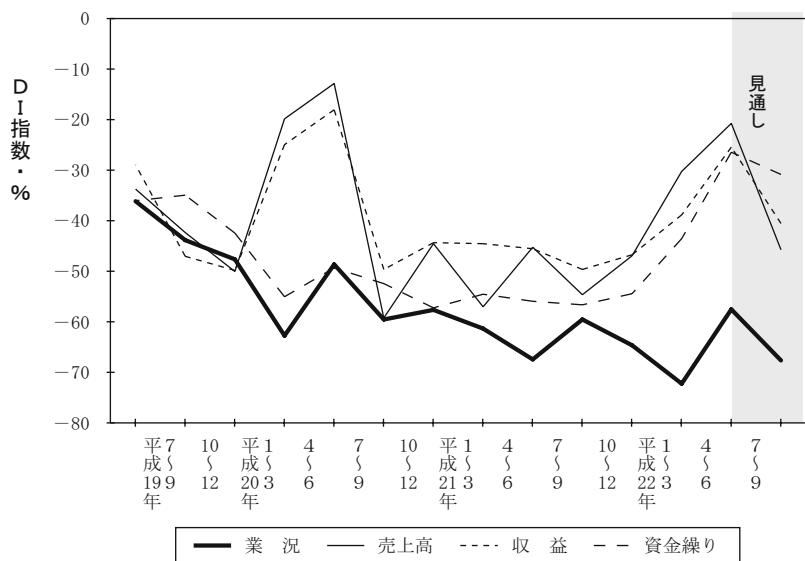
来期の見通し

業況は貸家業・貸間業では悪化傾向が続くとみています。不動産代理業・仲介業では改善から悪化傾向を強めるとみています。建売業・土地売買業は今期に続き悪化傾向を弱めるとみています。全体的には-68と10ポイント下降し、悪化傾向が強まるとみています。売上額は-46と25ポイント、収益は-41と15ポイント下降し、減少傾向を強めるとみています。価格面では、販売価格は-62と8ポイント、仕入価格は-33と12ポイント下降し、下降傾向は強まりそうです。資金繰りは-31と4ポイント下降するとみていますが、大きな変化なさそうです。在庫は-3と6ポイント上昇し、不足感が弱まるとみています。残業時間は-1と3ポイント上昇し、適正水準に近づくとみています。人手は-7と4ポイント上昇し、不足感が弱まるとみています。

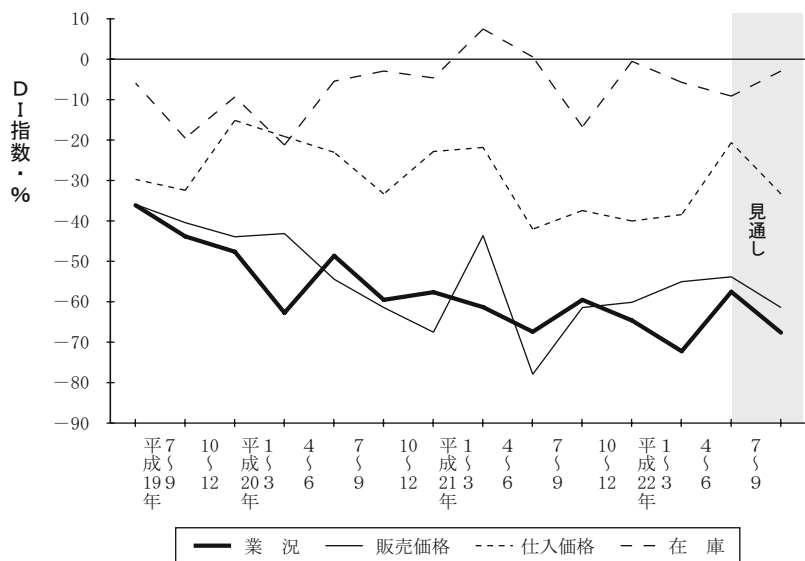
調査員のコメント

- 昨年度よりも引越し等による売上が伸び、賃貸物件の入居率がよくなった。(不動産賃貸業)
- 大手企業との競争もあり、売上が伸び悩んでいるが、地元という利点を活かし堅実な経営をしている。(建売業・土地売買業)

景況の推移



主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期 22年4月～6月 / 前期 22年1月～3月

		△100	△90	△80	△70	△60	△50	△40	△30	△20	△10	0	10	20	30	40
建売業・土地売買業	業況	● → ○														
不動産代理業・仲介業	業況	● → ○														

経営上の課題点	1位	売上の停滞・減少(1)	17社 (77%)
	2位	利幅の縮小(2)	16社 (73%)
	3位	同業者間の競争の激化(3)	9社 (41%)

当面の重点経営施策	1位	経費を節減する(2)	12社 (55%)
		情報力を強化する(1)	12社 (55%)
	2位	宣伝・広告を強化する(3)	11社 (50%)

*()は前回順位 * 対象企業総数は22社